

## 第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
--------------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK18278
SK18280

### ③施設名等

名称：	児童養護施設 奥浦慈恵院
施設長氏名：	濱村 みち子
定員：	40名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	五島市平蔵町2442番地1
T E L：	0959-73-0055
U R L：	
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1880/10/17
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 奥浦慈恵院
職員数 常勤職員：	22名
職員数 非常勤職員：	2名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	8名
有資格職員の名称（イ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	管理栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	4ユニット・24部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

### ④理念・基本方針

<p>理念</p> <p>「自分を愛するように隣人を愛しなさい」とのカトリックの愛の精神に基づき、聖母マリアに倣い、社会の必要に応え、人々にキリストの愛をもたらすよう努めます。児童養護施設においては、児童福祉法の理念に則り、家庭において適切な養育を受けることができない児童を家庭に替わって養育する。その実践にあたっては、カトリックの愛と奉仕の精神をもって育み、児童の必要に応えるよう努める。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第三者評価及び自己評価に毎年度取組み、課題を見直し改善に向け検討している。</li> <li>・ 院内外の研修会へ参加し、職員の質の向上に取り組んでいる。</li> <li>・ 必要なマニュアルや委員会を設置し、支援の向上に努めている。</li> <li>・ 心理士を常勤で配置し、地域の3歳児・5歳児の検診等へも協力している。</li> <li>・ 建物が明るく清潔感があり、安心、安全の生活を目指している。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2018/6/20
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2019/3/4
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成27年度

## ⑦総評

### 特に評価が高い点

#### 1. 歴史と伝統を重んじ、豊かな自然と恵まれた地域を活かした養育支援

児童養護施設として長い歴史を有し、古くから引き継がれてきた伝統を承継している。院を取り巻く環境は、穏やかな雰囲気、豊かな自然に恵まれた場所にあり、伸び伸びと院での生活を楽しんでいる子どもたちの様子が窺える。また、施設の性質上、地域にどこまで開かれた施設とできるかは難しい部分であると考えられる中で、地域住民から顔を覚えられほどの関係を構築しており、地域の資源を有効に活用しながら地域と関わり、そして可能な限り還元に努めている。

#### 2. 子どもに寄り添う養育とそのため職員の自己研鑽

「カトリックの愛と奉仕の精神をもって育み、児童の必要に応えるよう努める」という一貫した理念の下、職員は子ども一人ひとりと向きあい支援を行っていることがヒヤリングの中で確認できる。子どもたち中心で、子ども自身の最善の幸福を目指し、メンタリティの育成にも努めている。また、職員は内部における勉強会、外部の研修、他施設の支援方法を学びながらより良い支援が出来るよう、自己研鑽に努めている。

#### 3. 食事を通して食への興味を育む取組み

担当職員が中心となり、楽しい食事に向けてさまざまな企画を立てて取り組んでおり、注力していることがわかる。子どもたちは周りの友達とおしゃべりをしながら、笑顔で楽しみながら食事している様子が窺える。子どものリクエストや嗜好調査の結果から、栄養士が魚と肉など栄養バランスを考慮しながら献立を作成している。週2回、手作りのおやつを作る日がある他、子どもたちと職員が世話をし栽培しているプランターのトマトやピーマンを食材に使う等、自然の恵みに感謝の気持ちを持つと共に、食への興味を養っている。

### 改善が求められる点

#### 1. 人事基準、人材育成のための仕組みづくり

院長は、定期的な職員面談を実施している他、職員それぞれが振り返りノートと称するシートを使い、自己評価を行う仕組みがある。ただし、シートを導入したばかりということもあり、その結果を処遇に反映したり、キャリアパス等のような昇進基準の整備を行うまでには至っていない。また、職員個別の目標設定や進捗、達成状況の確認までには至っておらず、面談の手順等、人材育成のための仕組みを作り、見える化することを期待したい。

#### 2. 権利擁護の内容に関する定期的な意識共有

権利擁護に関するマニュアルは整備しており、子どもたちに向けても権利ノートを使い啓発を行っている。職員間で周知する取組みや内部において勉強会を行ってはいるものの、主任指導員自身、また、職員に対して伝え切れていない部分が多いと感じていることが聞き取れる。今後の取組みに期待したい。

## ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度の第三者評価受審にあたり、事前の説明、聞き取り、講評等お世話になりました。

職員にとっても自己評価から施設のまとめを作成するまで、大変な作業でした。

しかし第三者評価を重ねる度に、新しい発見があり、客観的な見解によって当施設の現況を把握することができます。

自然環境に恵まれ、地域の方々の温かい支援に支えられ、児童は伸び伸びと育っていきます。

評価が高い点については有難く受け止め、更なる目標へと向かい、改善が求められた事項に関しては、全職員が一丸となって研鑽を重ねながら、支援の質の向上に繋げていければと念じております。有難うございました。

## 自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a  ○ ○ ○ ○ ○ ○
<b>【コメント】</b> 母体法人の理念に則り、児童養護施設のテーマを掲げており、職員会やミーティング時に朗読している。理念をもとに児童像や方針などの目標を記載した書類ファイルを各職員が持っており、会議の際に読み合わせたり、児童会の時に話すなどで周知を図っている。 理念や基本方針を記載したパンフレットは、児童相談所に置いている。保護者への連絡は児童相談所が行っているが、連絡が可能な保護者には広報誌「慈恵院の灯」を送付しており、周知に努めていることが確認できる。	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b  ○  ○ ○
<b>【コメント】</b> 社会福祉事業・児童養護施設のビジョンの動向は、院長や主任が各種研修に参加し情報収集を行っている。福祉計画の策定状況は把握しており、地域の子どもの数の推移は独自で分析しているが、地域性もあり現状に沿っていない部分はある。五島市は地域活動が活発であり、当院が位置する奥浦地区にもまちづくり事業の一環として“ゆめまちづくり”がある。そのため施設としても歴史探索・スポーツフェスタ・畑イベント等に積極的に参加し、地域との交流を密にし、情報収集及び課題の把握に努めている。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

毎年度、事業計画書を作成しており、理事会で実績・決算報告を行い、施設の現状について役員等と情報共有するとともに課題や問題点を明らかにし、次年度計画の策定へ繋げている。院長は、課題や問題点を職員会議にて職員に説明し、関連ファイルをいつでも見られる場所に設置している。また、物品購入や補修工事は事前に計画しており、事業所内の子どもの被服・布団等要望は職員の声を聞き、必要なものは伺いを出し、必要と判断した場合は、都度、補正予算を組んでいる。  
 ここ数年の間においては台風通過時の塩害が厳しく、速やかに改善すべき課題への対応として、大規模な外壁等修理を行った事例がある。

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

家庭的養護推進計画を作成し、行政に提出している。年次別の10年計画書があり、定員見直しや第三者評価受審など単年度計画に落とし込んでいるが、建物の改修や修繕、設備投資等、具体的な数字を踏まえた資金収支計画にはなっていないため、今後の計画策定時の検討の際には盛り込むことを期待したい。新しいビジョンに基づき計画を策定しているが、施設の性質、地域性により難しい部分もある。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

中・長期計画の内容を踏まえた単年度の事業計画書を作成しており、運営・児童処遇・職務分担・健康計画・地域交流・研修など行事計画以外の部分も確認できる。  
 単年度事業計画の内容では、出生数の減少と利用者数の減少が一致しないため、今後の利用者人数の変動が見えず、具体的な数値目標の策定が難しい状況である。このことは、施設だけで解決できる課題ではなく行政、地域全体で対応することが望まれる。院長は、今後行政から発せられる新しいビジョンをもとに再考するというのである。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は、職員会議等で職員の意見要望や提案を聞いて集約し、反映し作成している。事業計画書は年度が始まる前に策定し、事業終了後は職員で評価を行い結果は事業報告書を作成し、理事会で報告している。内容によっては職員全員の参画が難しいものもあるが、院内の行事は職員意見を反映しており、事業計画書、報告書等をまとめた関連ファイルをいつでも見ることができる場所に設置している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

子どもたちには児童会を通して、事業計画の必要な部分は内容をわかりやすく伝えるように努めているが、保護者へは施設の性質上、全員への周知を促す取組みは難しい状況にある。一部の保護者に対しては、広報誌等で事業内容や施設の様子を報告する程度となっている。子どもたちそれぞれに事情があり、その保護者全員に対応することは厳しい状況だが、可能な保護者へは引き続き周知のための工夫を期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

自己評価は毎年行っており、3年毎に第三者評価を受審し、取り組むべき課題を明確にしている。明確にした課題は職員全体で共有し、内容の分析や対策の検討を行っている。

子どもたちが自立していくための支援については、本人と一緒に自立支援計画を作成し、3ヶ月を目安に見直しを行っている。担当制を採用しており、1対1で対応して自立支援計画書を作成している。作成後は、全体のミーティングで発表し、他職員の意見やアドバイスを受け入れながら、共有を図っている。第三者評価結果の公表は、インターネットのサイト、ワムネットにおいて誰もが閲覧できることを理事会にて広報している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

評価の結果を継続するもの、改善した方がよいものに分けて文書に落とし、職員間で課題の周知及び共有を図っている。この文書は全職員に配付し、改善に取り組んでいるが、計画的に行っているとなると弱い部分がある。職員が実施する支援の質の向上のため、研修参加については院内外問わず積極的に行っている。改善点については、一度に全てを改善していくことは厳しいため、優先順位をつけ計画的に少しずつ改善していくことが望まれる。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

院長は、職務分担表の中で自身の職務については明確にしており、分担表は誰もが閲覧可能ではあるが、その掲示や広報は行っていない。広報誌等に、院長の自らの役割や責任についての言葉は少なく、施設長不在時の対応については職員間で把握しているとのことであるが、文書化までは行っていない。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

院長は、虐待の問題についての法律等については研修等に参加し理解を深めているが、全職員へ十分に周知しているかどうかという部分ではまだ頑張れる部分があると考えている。虐待を理由に入所している子どもが多く、施設内で再度の虐待を出さないように環境整備には特に気を付けている。不審者対策・自転車使用・非行防止等の内容は警察に施設へ出向いてもらい研修を行っている。個人情報守秘義務に関して、院長は職員が外部に漏らすことは無いと考えているが、可能であれば全職員に守秘義務の誓約書を取り交わすことが望ましい。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

各ホームにリーダーが存在しており、施設長は各リーダーや子どもたちとの話合いの機会を多く持ち、支援の質の向上に努めている。院長は、全国施設長会等に出向き、職員の模範となるよう自己研鑽に励んでいる。  
 また、職員に対して年4回の院内研修やケース研修及びスーパービジョンの実施の他、九州ブロック施設・長崎県社会福祉協議会新人研修など院外研修の受講を促すなど、教育の充実を図っている。  
 外部研修参加後は職員会議で報告し、院長の研修参加後も必ず職員会時に職員に報告している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は毎月の試算表で予算の進捗状況を把握し、財務内容の分析を行っている。  
 経営改善や業務の実効性向上については主任と相談しており、職員とは日頃の会話や面談の結果で、次年度の職務分担を決めている。また、有給休暇の取得については、職員の意向により取得できている状況である。  
 各種委員会があり、勤務の状況により委員会を開催するとともに、1年間を振り返り反省を行っている。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

### 【コメント】

家庭的養護推進計画において人材育成や雇用について記載している。人員体制を整えるために、可能な限り早めに採用面接に取り組むよう計画している。人材育成としては、例えば社会福祉士のような国家資格取得を目指す職員に勉強するための有給休暇を取れるようにバックアップしている。資格取得後は手当に反映し、モチベーションアップに繋げている。

資格を目指す学生の実習受入れにも積極的に取り組んでいる。これまでに実習を契機にそのまま就職した職員もいることから効果的な人材確保の方法であると言える。また、各種委員会や新人職員の教育などを通して、職員同士が互いに支えあい、成長し合う関係が出来ていることが窺える。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

### 【コメント】

期待する職員像については記載されている文書を職員ファイルの中に綴じ込んでおり、職員はいつでも確認ができる。顧問の社会保険労務士に相談のもと、俸給基準や昇給関連は給与規程の中に記載している。人事考課については実施していないが、年に1、2回の職員面談を行い、意向や意見の抽出等を行っている。振り返りノートにより自己評価する仕組みはあるが、それを処遇に反映したり、キャリアパス等のような昇進基準の設定までには至っていない。また、法人内のグループ間の職員異動については、各ユニットの体制や職員の能力等を鑑み対応している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

労務管理の責任者は施設長である。有給休暇の取得や時間外労働については、専門の事務員が管理しており、その就業状況を鑑み、可能な限り職員の要望を取り入れているが、なかなかバランスを取ることが難しい現状である。

職員の心身の健康管理として、施設の費用負担にて年1回の健康診断、インフルエンザ予防接種等を実施している他、メンタルヘルスケアとして外部の「なんでも相談窓口」を活用するよう、職員に案内文を配付している。

退職金制度に関しては福祉医療機構の制度に加入し、備えている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

期待する職員像は明確にしており、職員個々の目標に対する自己評価としては振り返りノートがある。

年に1、2回、施設長による職員面談を実施しており、その面談記録は施設長のみが確認できるノートがある。目標や方針を徹底するまでには至っておらず、面談の手順や進捗状況の確認等、仕組づくりに関しては検討している段階にある。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

期待する職員像は明示しており、職員ファイル内の文書からも確認できる。年4回の院内研修の計画を立て、職員が参加している他、必要に応じて外部研修も受講している。  
研修の計画は年度初めに策定し、研修の内容や必要性、職員の要望に応じて受講を促すと共に、研修内容の見直しを行うなど職員の教育、育成に役立つよう努めている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

院長は、職員個別の知識、技術、資格の取得状況を園長は把握している。  
振り返りノートにより園長及び職員自身が自己評価する仕組みはあるが、組織力の向上というところまでには至っていない。適時、外部研修の情報を提供しており、職員が参加したい研修に参加できるようシフトの調整を行うなど工夫している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

相談援助実習ファイルの中にマニュアルを備えており、実習生の希望する実習内容に応じてプログラムを検討し、提供している。  
職務分担表に実習生対応の担当職員を明記している。実習生は県内だけでなく、県外の学校からの受入れもある。指導する職員は自ら勉強会や講義に参加し、さらなる指導力の向上に繋げられるように努めている。実習を依頼する学校と、よりよい実習となるように適時、連絡を取り合っている。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	
【コメント】		
<p>必要に応じて子どもや保護者に渡せるよう、パンフレットは児童相談所に預けている。事業計画書、事業報告書、予算書等は閲覧簿として設置しており、誰もが閲覧、確認できる。</p> <p>第三者評価の受審結果はWAMNETにて公表している他、苦情相談の体制やフロー、受付担当者、第三者委員については文書として明確にし、院内にも掲示している。</p> <p>苦情が出た場合は、広報誌の中に結果を報告している。院内に設置している意見箱には子どもたちからの投書もあり、対応した事例がある。施設の性質上、地域へ積極的に広報することは難しい部分がある。</p>		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>経理や取引に関しては経理規程において、職務分掌や権限等に関しては職務分担表において明確にしており、周知している。財務は税理士、労務に関しては社会保険労務士と外部の専門家と顧問契約しており、随時、支援を受けている。内容に応じて法テラスの子ども担当の弁護士に依頼することもある。</p>		

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>職員は地域の一員であり、子どもが地域と交流する際は保護者という意識で、地域の行事ごとには積極的に参加している。スポーツフェスティバル・歴史探索・よかもん市・ねぶた祭のねぶた曳き・青年会議所主催のバーベキュー・港まつり参加など交流が盛んに行われている。</p> <p>子どもの友人が施設に訪れやすい環境やルールを整えており、遊びに訪れたときは楽しく過ごしている。買い物は職員が同行するが、高校生は自転車で外出している。通院受診時はケースバイケースの対応している。</p>		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

ボランティア活動のマニュアルがあり、基本姿勢や留意事項を明記している。現在は、第三者委員によるバス運転ボランティアを受入れ、雨天時の通学送迎を依頼している。  
また、心理士のボランティアを受入れ、子どもの心のケアをお願いしている。体験学習の場所として施設を開放しており、近隣の中学生が車椅子での移動や黄色の線上を歩行するなど体験した実績がある。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

学校・保健所・保育園・警察等の関係機関と連携があり、電話番号早見表及び電話番号短縮登録など職員間で共有している。連携機関とやり取りがあった場合は、関係機関との連絡ノートに記載し職員間で共有を図っている。  
アフターケアに関しては、地域的なネットワーク化には至っていないが、正月・こどもの日・誕生日にカードを送っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設主催の夏まつりには、多くの地域住民の参加があり交流ができています。また、専門家を講師としての院内研修時にも保育士や学校の教師など関連機関に参加を呼びかけています。施設としては奥浦地域の状況を把握できおり、地域のイベントには積極的に参加し「ゆめまちづくり」の役員が聞き取った要望や意見等を役員会で共有し、次に繋げている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

常勤心理士が、五島市の3歳児・5歳児検診に出向いて手伝う他、地域子育て支援として五島市の要請により近隣住民親子の相談を受けている。奥浦地区ゆめまちづくり協議会には、育成委員会・福祉委員会等があり地域貢献に関わる活動を実施している。  
地域の災害ボランティアに登録しており、平成28年に川の氾濫を想定した地域ぐるみの訓練を実施している。また、火災訓練では、消火栓から引ける消防ホースの本数の把握も含めて実施した事例があり、詳細なハザードマップも整っている。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者  
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

職員会議やミーティング時に、2010年版の全国児童養護施設協議会の倫理綱領を読み上げている。職員行動規範があり、各職員に配布しているファイルに綴り、いつでも確認できる状態である。  
子どもの最善の利益を考慮した外部研修に主任が出向き、後日、院内でケース研修を行い全員に周知している。子どもの権利ノートは子ども全員が所有しており、児童会の中で権利について講和している。職員の不適切な言葉掛けや行動があった場合は、院長が職員面談を行い、注意している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

人権擁護と個人情報の保護マニュアルがある。居室には他の子どもは入室しないなどのルールがあり、職員が居室に入る時はノックして入室している。  
 子どもに届いた手紙等は勝手に開封せず本人に渡すが、後で子どもの様子に変化があれば内容を聞く場合もある。  
 家族への電話は、親子生活訓練室から連絡するようプライバシーに考慮している。  
 携帯電話やスマートフォンは原則、所持することを認めていない。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

理念や沿革、サービスの内容等の記載のあるパンフレットを作成しており、施設の玄関に設置している。施設の性質上、積極的な広報や情報提供は難しいが、行政担当課、児童相談所を通じての配付もある。また、施設独自の広報誌を作成し、雰囲気や行事の様子がわかるように工夫していることが見てとれる。  
 パンフレットや広報誌は今後、現状に応じて見直すよう考えている。保護者への情報提供は子どもとの関係性を考慮した上で対応しており、要望があれば施設への見学者受入れを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

子どもに守ってもらいたい約束ごとに関しては、子どもが理解できる言葉や内容にて各ホームごとに入所時の約束事という文書にまとめている。  
 支援の開始に関しては児童相談所から送付されるフェイスシートを基礎情報とし、受入れ体制を整えている。入所後に自立支援計画を作成し、状況に応じて定期的に見直しを行い、よりよい支援に繋げている。  
 ただし、非行の問題がある子どもの状況や施設内の子どもに大きな影響を与える可能性がある子どもの場合等、状況に応じて継続的な受入れが難しくなる場合がある。保護者への説明は子どもとの関係性を考慮した上で対応している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

施設として、退所した子どもには電話連絡の他、適時面会する等必要に応じてアフターケアを行っている。子どもが施設を訪れることも多い。個人育成記録に関しては、卒院後のアフターケアの点を考慮し、永久保存している。  
措置変更が必要と思われる場合は児童相談所に相談し、児童相談所の判断のもとで手続きを行っている。また、移行後、移行した施設から連絡や記録等の閲覧、作成要望等があれば随時対応している。  
必要に応じての文書作成となるため、手順や引継ぎ文書を定めている訳ではなく、また、保護者の対して説明文書を渡すことは行っていない。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子どもたちに対して、日々の生活に関する満足度を図るアンケートとして、ホームでの暮らしについてのアンケートの他、食事に関する嗜好調査を年1回行っている。嗜好調査の結果は調理担当者や栄養士が参加する職員会議の中で報告し、必要に応じて更なるサービスの向上に繋げている。また、児童会の中では子どもたちに向けて、マナー指導など一般知識の勉強会という趣旨を加味した内容で講話している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決責任者は施設長であり、関連文書が施設内に掲示し開示している。第三者委員を設置しており、苦情解決実施要項、フロー、連絡先は職員ファイルの中に文書として確認できる。  
 来客用、子どもたち向けの意見箱を施設内にそれぞれ設置しており、件数は少ないが投書があった場合は検討し、対応した事例がある。意見箱の扱い方については文書にて明示し、意見や苦情解決の検討結果に関しては、文書でまとめ、適切な方法により公表している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

職員は、子どもたちの相談ごとを日々の会話等の中から汲み取れるよう、話しやすい雰囲気づくりや信頼関係の構築を目指している。  
 配慮が必要な場合は空いている部屋を利用し、相談を受けることもある。相談の内容や子どもたちの要望によっては、心理士が担当して「こころの時間」という機会をつくり対応している。相談の内容は個人育成記録に記録し、心理士は、心の時間実施記録を作成している。ただし、特別に説明するための文書を作成したり、保護者への配付は行っていない。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	□職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	□意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	□相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	□職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	□意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	□対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

意見箱は、人気キャラクターを用いて低年齢の子どもにも認知されやすいよう工夫しており、年齢問わず子どもたちが理解しやすいことが見てとれる。子どもによっては、意見箱を使用せず、直接自分の思いを口頭で伝えたり、メモに書いたものを職員へ渡すなど自由に相談しやすい方法を取っている。携帯の所持希望、食事のリスエスト、部屋変更、バスケットコートが欲しい等、支援の内容のみならず生活環境の改善まで何でも表出している。意見や要望を検討した結果は、子どもたちに報告している。

また、意見箱の傍らに第三者委員の連絡先を掲示し、相談先があることを伝えている。第三者委員が院へ訪問時に、子どもたちは自由に自分の意見を表出したり、相談している。

意見や相談内容は、職員ミーティングで情報共有すると共に思いに対する解決策を話し合っている。内容によっては、リーダー職員同士で解決策を検討している他、各ホームのミーティングノートに子どもたちの思いや接し方等を記載し、職員間で情報を共有している。

児童会後も毎回子どもの意見がないか職員は尋ねている他、ホームでの暮らしについてのアンケートを中高生と小学生向けに実施している。このアンケート内容は集計し結果を共有し、より良い支援に繋げている。

フローチャートはないが、「悩み事受付・解決体制」のマニュアルがあり、その見直しは、マニュアル委員会が見直し案を作成後、子どもの意見等を踏まえ、職員ミーティングにおいて検討している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	□リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	□事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	□子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	□収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	□職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	□事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメントについては、施設長のリーダーシップの下、対策を講じる体制を構築している。事故発生時は、施設長、主任指導員、少年サポートセンターと情報共有している。職員がいつでも確認できるよう、危機対応マニュアル、安全管理の体制、不審者マニュアルなどは各棟に配置している。

警察署員を講師に招き、防犯と安全確保の研修を実施しており、不審者対応、さすまたの使い方や防犯対策グッズなどのアドバイスを受けている。

保護者などの強引な引き取りや不審者対策は、主任指導員が中心となり対応策を全職員へ指示し、統一した対応を講じている。主任指導員が、マスコミ対策や外部関係者の対応窓口である。

子どもとの暮らしの中でヒヤリハットとした事例は、職員はミーティング日誌に記録している他、振り返りノートに気づきを記録する仕組みがある。職員会議や記録から抽出した発生要因を話し合い、改善策・再発防止策を検討し、実施している。また、主任指導員が収集したヒヤリハットをもとに、要因を分析している。

現在、ミーティング日誌などの記録をもとにしたヒヤリハット収集は、定期的な評価・分析まで至っていない。また、ヒヤリハット書式も検討中である。以前に行っていたヒヤリハット分析・評価は支援に有効活用されており、今後も定期的な分析・評価が望まれる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

危機管理マニュアル-給食編-の中で、感染症対策について責任と役割を明確にし、管理体制を整備している。看護師を中心とし、衛生管理・安全委員の職員へ感染症の予防策を講じている。また、インフルエンザ・ノロウイルスなど流行時期に、職員ミーティングを通して、職員へ向けてマニュアル確認を指導している。子どもには、手洗い・うがい・マスク着用など掲示物や口頭で注意喚起している。感染症発生時は、別棟の一室を活用し感染拡大しないよう対策を講じている他、幼児や低学年児童については、看護師が見守っている。また、感染症などの最新情報は、病院や行政機関から随時情報を集め対策を検討している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

緊急時対応マニュアルの中に、災害時の対応体制について記載している。職員は誰もが確認できるよう、マニュアルは各ホームに設置している。また、消防計画及び自然災害対策の避難計画を作成している。子どもたちも参加する避難訓練は、火災や地震等の災害の種類や朝昼晩の発生時間の想定を変更しながら、毎月実施している。訓練日の時間は事前に告げず、訓練後には反省会を実施し、課題について改善に向けて検討している。また、非常時における食料や備品の備蓄があり、保管場所や個数、消費期限など毎月自主点検を行っている。施設を取り巻く地域の防災マップは確認しており、地域の防災訓練には職員と子どもたちも参加し、関係を構築しながら、地域の避難場所も確認している。子どもたちが登校時の災害発生に対する安否確認訓練は学校の協力のもと、実施している。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【コメント】		
標準的な実施方法を記載したマニュアルを各職員が所持している。そのマニュアルには、職員心得や職員の心構えの記載があり、その中で子どもの尊重や権利擁護の内容が盛り込まれている。 標準的な実施状況の項目については、外部研修に参加したり、職員会議の中で実施状況を確認し共有している。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
半年毎に自立支援計画を見直している。また、定期的ではないが、実施方法の検証、見直しを職員の勤務の状況を考慮しながら、随時開催している。計画の内容は回覧により、職員は情報を共有している。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【コメント】		
自立支援計画は主任指導員を責任者とし、各ホームリーダーと担当職員が作成している。 子どもの生活状況を見ながら、本人と担当職員が話し合い、家族との交流等関係職員とも合議しながら、目標を立てている。 今年度、児童相談所とのヒヤリング時のアセスメントシートを作成し、より詳細な聞き取りを行っており、毎月2回のミーティング後に自立支援計画の立て方等学習会を行っている。 支援困難な場合にはケース検討会を行い、外部からのスーパーバイズを受け、適切な養育・支援を行う仕組みが確立している。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画の実践状況については、毎月2回のミーティングの中で報告、検討を行っており、担当職員は目標や課題について子どもと共に評価を行う仕組みがある。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子ども一人ひとりの自立支援計画の実践状況は、施設で定めた個人育成記録の様式に記録しており、職員会議やミーティングで共有している。  
 ケース記録マニュアルを各職員が持っており、記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように研修会を実施している。施設にはホームごとの日誌やホームノートがあり、職員は毎日日誌で状況を確認しており、毎月院長に提出し、情報共有する仕組みがある。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設の特定期間個人情報取扱規程に基づいて、子どもの個人記録等管理しており、個人情報の不適正な利用や漏洩があった場合の罰則を設けている。  
 個人記録については担当職員、日誌については宿直担当職員、個人情報全般については院長と主任指導員が管理責任者となっている。  
 マニュアルの中に個人情報の取扱いについて明示し、職員に周知を図っている。学校の広報誌等の写真記載に関しては、子どもへの配慮等について検討している。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	c
□子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
□子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
□権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	
□権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
□子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

各棟に子どもの権利擁護に関するマニュアルを設置しており、職員会議の際に音読したり、職員室に倫理綱領を掲示しており、職員への周知を図っている。

虐待が疑われる場合の対応についてのフローチャートを作成しており、厚生労働省の資料を基に虐待の起こりやすい時間等情報を共有し、権利侵害防止と早期発見に向けた取組を行っている。

権利擁護に関する勉強会を行ってはいるものの、主任指導員は職員に対して伝え切れていないと感じている。現在、職員が具体的に検討し見直す機会は設けていないため、子どもの権利擁護に関する権利侵害の防止と早期発見のためにも今後の取組みに期待したい。

(2) 権利について理解を促す取組	
① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
□権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
□子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
□職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
□子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
□年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

子どもの権利について理解が深まるよう、職員は子ども一人ひとりとの面談や関連する本の読み聞かせ等、日常生活を通して行っている。

子どもたちには権利ノートを渡しており、定期的に児童会の中で約束ごとの見直し等行っている。ホーム内で解決できる案件はホームリーダーに一任し、職員ミーティングで検討が必要な案件は職員の意見を得て、生活の中の権利と役割を果たす義務を理解する機会を設けている。また、今年度初めてスクールサポーターの協力を得て、自他を傷つけてはならないことについて講話を行っている。

年上の子が年下の子を助けるということを日常生活の中で伝えている。ただし、職員間で子どもの権利について学習する機会を設けていないため、実施が待たれる。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

本人の生き立ちについては、子どもの発達状況に応じて保護者や児童相談所と連携し、個別の事情によって伝える内容を検討しており、伝え方等ミーティングで話し合い、職員間で共有している。本人の要望があれば知りたいこと等対応しており、事実告知後は職員が本人の言動等を注意深く見守っている。一人ひとりの子どものアルバムを作成しており、卒院時に手渡している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

体罰や不適切な関わりがあった場合を想定し、施設では虐待が疑われる場合の対応についてのフローチャートを作成し、厚生労働省の資料を配布しており、職員への周知を図っている。  
 子どもたちに権利ノートに添付してある封書について説明している他、スクールサポーターへの連絡先カードを配布しており、意見箱に投函できることも伝えている。  
 主任指導員はホームリーダーに職員の言動で不審な点はないか尋ねており、ケアネグレクト等発生しないよう注視している。年1回被措置児童虐待防止研修に職員が参加しており、研修内容を報告し情報共有している。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもと職員は快適な生活に向けて、各ホームの約束ごとを決めており、ホームごとに毎月の生活目標を立て、自分たちで生活を作っているという実感を持たせている。  
 月2回のホーム会議で生活の見直し等行っており、年8回開催している児童会で子どもたち共通の約束ごとについて話し合っている。余暇の過ごし方については希望に応じて外部講師からピアノを習うことができ、公民館でのお菓子作りやEM泥だんごづくり等地域の行事に参加したり、趣味や興味に合った活動ができるよう支援している。  
 また、職員は小遣いの計画的な使い方を指導しており、小遣い帳を活用して金銭管理が身に付くよう支援している。子どもと職員が快適な生活に向け共に考え、子ども自身が主体的に取り組んでいることが窺える。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入所については、児童相談所等関係機関と連携し、子どもの入所経緯を把握し、施設全体で温かく迎える準備を行っている。多くの子どもは夢や希望が持たず、現実が理解できないこともあり、職員は生きていくためにやらないといけないことを教え、本人が前向きになっていけるよう支援している。  
 本人の意志で1年契約で入所しているケースもあり、職員は家庭復帰に向けて安定した生活を送れるよう支援している。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

一人暮らしのためのガイドブック“ブリッジフォースマイル巣立ちのヒント”を基に、施設を旅立ち、社会人として生きる上で基本的に必要なことを施設独自にまとめている。卒院前の子どもは退所児童宿泊室を利用して、自炊や金銭管理、行政手続き等職員の支援を受けながら、1、2週間ひとり暮らしの訓練を行っており、その様子は自立訓練日誌に記している。

卒院後もアフターケア委員会を中心に支援に取り組んでおり、自然災害時の安否確認や転職・転居等卒院生の状況を把握している。アフターケアに関しては、行政機関や福祉機関等に対象となる子どもの情報等提供できる協力体制を整えている。

また、今年度行政書士を講師に迎え、法的な勉強会を予定しており、子どもが安定した社会生活を送ることができるよう支援している。OB会等は設けていないが、院を訪ねてきた際には毎年作成しているアルバムを見ながら職員と談笑したり、院内の子どもたちに卒院して実感したことを伝える等交流する機会を設けており、退所後の関係構築にも努めている。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

職員は、子どものフェイスシートやアセスメントシートから生育歴を把握し、子どもと共に課題に向き合っている。職員の経験年数により理解度の偏りがないよう、院内研修や外部研修を受講し理解を深めている他、ベテラン職員や専門職員によるアドバイスもある。

子どもの生育歴、表出している感情や言動のみの一部を取り上げるのではなく、子どもの全体を捉え関わっている。職員は、子どもの怒りや苦痛の思いを聞くだけでなく、他者ならどう思うかを含めて応答している。子どもが自らの思いを表現することが難しい場合は、心理士がコラージュや箱庭、絵を通して、子どもの心に何が起こっているかを汲んでいる。

また、会話が困難な場合はイラストを準備し、視覚的な問いかけから思いを汲む工夫がある。児童会を通して、院内が安心安全な場所であることを伝えていると共に、アンケートも実施している。アンケートでは、子どもが自由に思いを表出することができ、職員と子どもの信頼関係が見受けられる。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

生理的欲求と心理的欲求は、各ホーム職員が子ども一人ひとりと関わりながら、欲求を満たすよう努めている。職員は幼児が安心して眠れるよう子どもの居室で添い寝したり、子どもが寂しがったり不安に感じた時は、宿直室で職員と過ごすなど対応している。また、子どもが夜間に不安にならないよう常夜灯を付けたり、職員室は夜間も常時照明を点けている。

院ではユニットケアを取り入れた後、各ホーム毎に子どもの意見をもとにホーム生活の決まりを作成し、ルールと称して子どもたちが自分たちで考えながら守っている。子ども主体でルールを守るよう取り組むことで、子どもと職員の信頼関係形成にも繋がっている。職員は子どもがルールを守れないとき、理由を尋ね柔軟に対応している。

院では金曜日に職員配置を増やしたり、職員が子どもの送迎時や夜の時間を活用し、子どもと個別の時間を設けるなど、基本的欲求の充足によって本人の生活が送れるよう養育・支援していることが確認できる。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は、各ホームで子どもたちが決めたそれぞれの役割や約束ごとについて、見守りながら支援しており、生活指導計画の月間目標を基盤にホーム内で毎月の目標を決め、子どもが自ら行動するよう働きかけている。

年2回自立支援計画の見直しの際には、子どもと一緒に目標や課題について評価を行っており、達成できるよう導いている。子どものつまづきや失敗等に対して必要に応じて支援しており、できなかったことができるようになったときには共に喜びあっており、子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にしていることが窺える。

子どもを十分に掌握し援助できるよう、忙しい時間帯には他ホームを手伝ったり、曜日によって職員を増員しており、職員配置にも配慮している。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

年齢や発達の状況に応じたプログラムの下、養育を実施している。幼児教育委員会が保育内容を検討し、年間指導計画を作成しており、幼児室で院内保育を行っている。ピアノや学習指導等外部講師を招いて子どもが学べる機会を設けている。

毎年、院内の図書コーナーには図書館司書が訪れ図書を整理しており、年齢ごとに仕分けし子どもが読みたい本を手にとれるよう工夫している。また、年齢に応じた玩具や遊具を用意しており、DVD観賞やパソコンが練習できるコーナーも設け、子どもたちが利用している。学校の友人が訪問する機会も多く、地域交流室を遊びの場として提供している。

施設では、ボール遊びや三輪車使用年齢等、遊びに関してさまざまなルールを決めており、子どもが納得できるよう説明を行っている。魚釣り体験やスポーツ大会等地域行事への参加、ボランティアによる折り紙や工作体験等、子どもの発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

職員は、食事のマナーや入浴、歯磨きの仕方等基本的な生活習慣について子どもと一緒にいき、子どもが身に付くよう支援している。子どもと職員はホームごとに話し合い、ホームの約束ごとを決めており、子どもは約束を守ることの大切さを学んでいる。また、児童会の旅行は社会的ルールを習得する機会になっている。

子どもが成長するにつれ、排泄等失敗した際に隠そうとする行動も見られるため、職員は声掛け等配慮し支援している。高校生になると携帯電話を持つことが可能となり、携帯・ネット対応委員会が携帯所持における決まりごと等説明している。子どもが社会生活を営む上で、必要な知識や情報を日常生活の中で習得できるよう職員は養育・支援を行っている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですることができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ユニットごとに職員と子どもは会話を楽しみながら食事している。栄養士が週ごとに、魚と肉など栄養バランスを考慮しながら献立を作成している。毎年、嗜好調査を実施しており、子どもたちの献立のリクエストを把握している。また、朝食後など子どもたちが直接、栄養士に感想を伝えている。

部活等で帰院が遅くなる場合は、事前に職員へ伝え、夕食時間と異なっても献立に合った適温で提供している。検食は各ユニットで記録し、残食状況を調理職員へ伝えている。高校生など弁当が必要な場合は調理員が準備し、子ども本人が弁当箱へ詰めている。

月2回、各ユニットで献立を決めており、必要な食材は調理員が準備している。病気等体調不良の子どもが出た場合は職員が調理員に連絡し、おかゆや麺類など消化のよい献立に変更し提供している。

アレルギーを持つ児童には、代替食にて対応している。週2回、手作りおやつを作る日がある他、プランターでトマトやピーマンなど栽培し、食の楽しみや興味を持つよう取り組んでいる。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

衣類は、子どもの体形に合ったサイズのを準備している。着替え、衣類の整理整頓等の衣習慣は、各ホーム職員が支援している。職員が洗濯やアイロン掛けしている他、職員と子どもと一緒に衣替えしている。職員は洗濯やアイロンなどの仕方を子どもに見せることで、衣習慣を習得できるように支援しており、自ら衣類を管理したいという子どもの欲求は尊重し、見守っている。

おさがりの洋服で対応することもあるが、サイズや好みに応じて衣類を購入している。衣類費はホームで準備し、子どもと一緒に購入している。子どもが、自ら好きな服を着て自己表現できるように支援している。

洋服には、TPOがあることを指導している。入学式・卒園式などの式典用の正装を園で準備している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設は4つの小規模グループを編成し、養育体制を整えている。  
 基本的に、低年齢児は相部屋、中学生以上は個室である。ただし、子どもにとって居心地のよい安心安全な場所の確保として、中学生以上でも相部屋で対応することもある。  
 日用品は、子どもが自身のお小遣いから購入し、個人所有としている。  
 リビングや食堂などの共有スペースは、平日は職員が清掃し、日曜日は子どもと一緒に清掃している。また、年2回大掃除している。子どもに整理整頓や掃除の習慣が身につくように支援している。  
 破損があった場合は、必要に応じて修繕している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

看護師は、子ども一人ひとりの健康状態や発育発達状態を把握し記録しており、健康診断や歯科検診の結果、予防接種の記録等を健康状態記録ファイルに保管している。更に身体健康面以外にも心的事由による健康状態も注意深く見ており、各ホームの担当職員と連携し対応し、必要に応じて専門医との連携を取っている。  
 受診や服薬が必要な場合には、ホーム担当職員が受診同行しており、看護師が服薬管理を行い、ホームごとに服薬管理表でチェックを行っている。  
 職員会議やミーティングで医療、健康に関する研修報告を行っており、エピペンを用いたアレルギー除去の勉強会を実施しており、職員に情報を伝えている。以上のことから、子どもの健康管理において施設が適切な対応が行われていることが窺える。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は子どもの年齢に合わせ、他者の性を尊重し、他者との付き合いができるよう指導している。性の課題対応委員会の職員を中心に、職員は性をタブー視せず、子どもの疑問や不安についてオープンな雰囲気でも明るく話ができる関係づくりに努めている。

カリキュラムは作成していないが、児童会等で性について正しい理解を促す機会を設けており、産婦人科医を講師に招き、子ども向けと職員向けの院内研修を実施している。

更に、今年度の院内研修では、職員対象に行ったアンケートを基に、性教育に関して得たい知識等の研修を行っており、子どもの心理面に配慮しながらも職員と子どもに対して、性についての正しい知識を得る機会を設けている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの暴力や問題行動については職員一人では対応せず、他ホーム職員と情報を共有し対応しており、必要に応じて関係機関とも連携している。子どもの問題行動にはさまざまな要因があり、把握に向け子どもとの関わりを大切にしており、心理士は子どもの描く絵や色使いから心理状況を確認し対応方法を検討する等、問題解決に向けて施設全体で取り組んでいる。

子どもと接する中で、職員の気持ちがコントロールできない場合もあり、各ホームに備えているイライラノートに怒りや喜び等自由に記述し、クールダウンしている。また、県警少年課のスクールサポーターによる非行防止犯罪被害防止教室を実施しており、非行や犯罪について分かりやすく子どもたちに周知を図っている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	□問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	□生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	□課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	□大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	□暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

問題発生の予防のため忙しい時間帯には他ホームを手伝ったり、曜日によって職員を増員する等、職員配置や勤務形態にも配慮しており、施設設備等に関しても不備や十分ではない点を検討し、改善している。  
ホームに暮らす子どもたちの構成は、子ども同士の関係性や年齢等を考慮しており、職員会議やミーティングを通して子どもの状況を職員間で共有している。配慮の必要な子どもや課題のある子どもについては児童相談所等他機関と連携し、個別支援を行っている。  
子ども間での暴力やいじめが疑われるケースでは状況を見極め、対象となる子どもに対し「悪いことは悪い」ときちんと伝えるよう、主任指導員が職員に指導している。院内での解決が困難な場合には、関係機関の協力を得ながら対応しており、子ども間の暴力、いじめ、差別等生じないよう院全体で取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	□心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	□施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	□心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	□職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	□心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	□児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づきプログラムを作成しており、院内の心理療法室で心理士が対応している。心理療法室は相談やカウンセリングを行う“お話の部屋”と箱庭や泥遊び等遊戯療法を行う“遊びの部屋”に分かれており、子どもの状況に合わせて支援を行い、心理実施状況を記録している。  
年2回心理の専門家によるスーパービジョンを実施している。心理士は子どもの心理ケアの他、職員のメンタルヘルスケアを行っており、心理士自身についてはスーパーバイザーに直接もしくはメール等で相談し、助言をもらっている。  
心理的ケアの対象となる子どもの保護者に対し、主任指導員と家庭支援専門相談員は児童相談所と連携し、定期的に助言や支援を行っており、心理的ケアに関して子どもに必要な支援が行われていることが窺える。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

自室に学習机を準備しており、自室以外でも子どもが落ち着いて学習できるスペースを提供している。高校受験に向けて家庭教師による学習指導も行っており、必要な参考書等を個別に購入している。  
 進路を決定する際には、本人の希望を尊重しており、必要に応じて児童相談所の協力を得て家庭や学校と連携している。子どもは宿題持ち物チェック表を利用して、宿題提出や忘れ物がないよう気をつけており、子どもに応じた支援を行っている。特別支援学級や特別支援学校に通学している子どももおり、職員は学校と情報共有しながら支援を行っている。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路を決定する際、担当職員は子ども本人が自己決定できるよう必要な情報や資料を提供しており、家庭や学校、児童相談所等の意見を聞き、本人と話し合っている。奨学金等の経済的な援助の仕組みについても情報提供しており、院でできることとできないことを伝えた上で支援を行っている。  
 進路が決定した子どもには、院内の退所児童宿泊室を利用して、自炊や洗濯、金銭管理等自立生活に向け訓練を行う期間を設けている。  
 できる限り子どもが中退したり不登校とならないよう、学校と協力し支援を行っており、中退や不登校となった場合でも、児童相談所と連携しながら社会経験が積めるよう支援している。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

島内には利用可能な資源が少なく、中学生、高校生は学校から職場体験に参加しているが、院では機会を設けていない。他県の事例では職場体験レクを実施している児童養護施設もあり、主任指導員は検討の余地があると考えている。

高校の仮卒期間に短期アルバイトや自動車免許を取得したり、学校と連携しながら英検、ワープロ、簿記等資格取得を支援しており、各種資格取得を積極的に奨励している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に家族との信頼関係づくりに取り組んでおり、家族に相談窓口や支援方針を伝え、関係機関と共に子どもの成長について考えることで、信頼関係構築ができるよう努めている。

外出や一時帰宅等については誓約書を交わしており、帰院後は子どもの様子を注意深く見たり、家族から様子を聞き取る等慎重に対応している。学校行事については家族に日程等伝えており、可能な限り参加を促しており、島外からの面会には院内の親子生活訓練室を提供している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に親との個別面談を行っており、担当職員が子どもの現状について説明している。面会や外出、一時帰宅後の子どもの様子を確認したり、親子生活訓練室を活用しながら、家族関係の修復を支援している。気になる子どもについてはフォローアップに上げ、児童相談所と面接を実施しており、関係機関と連携しながら親子関係の再構築に向けた支援に取り組んでいる。